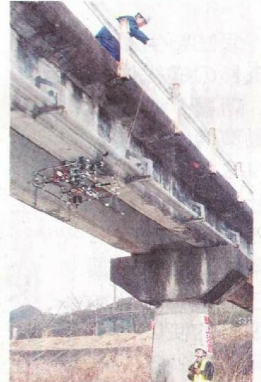


第5回フィールド試験

中日新聞 (2017年3月10日)



ドローンで橋の裏側を点検する担当者ら＝先月22日、美濃市上野で

ドローン使い 橋の点検試験

岐阜大チーム

橋の点検の新技術を搭載した装置の実地試験が、美濃市上野の板取川左岸河川敷であった。岐阜大の専門チームの教授ら六十八人が、川に架かる下橋を使って効果や改善点を確認した。

同大は、国が民間にインフラ点検装置などの開発を委託する「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」に協力。県内で導入できそうな装置の

実地実験を国から請け負い、昨年十月から県内各地で試験を行っている。今回は五回目で、橋の損傷状況の変化を調べるカメラや、打音による点検装置など三種類をテストした。河川敷で開発担当者

らは装置を動かし、点検を請け負っている業者らに使い方を説明。打音機械や録画用カメラを備えた小型無人飛行機「ドローン」の実演飛行もあり、担当者は目視しづらい橋の裏側にドローンを飛ばして有用性を確かめていた。参加した岐阜大の羽田野英明客員教授(左)は「本物の装置を見て具体的な使用イメージができた。どんな場所にとどの技術が使えるのかを今後考える必要がある」と話していた。(大野雄一郎)

建通新聞 (2017年2月28日)

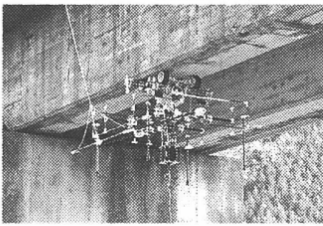
業界・行政ニュース

県初ロボットで 橋梁点検試験

岐阜SIP
実装支援チーム

岐阜大学SIP実装支援チーム(代表・沢田和秀岐阜大教授)は22日、第5回フィールド試験を行った。3研究機関が、県内では初となる飛行ロボットなどによる橋梁点検試験を行った。写真。

試験実施会場は、美濃市上野の板取川に架かる人道橋の「下橋」。羽田野英明工学博士が試験予定などを確認した後、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)で採択された三つの研究機関が試験技術の概要を説明し、実際にロボットを可動させ橋梁点検を試行し



た。今回試行したのは、① ング(三井住友建設)などのSIP技術。ドローンに搭載したカメラ視・打音検査(研究機関で近接目視した他、ハン・新日本非破壊検査)② マーによる打音をコン飛行ロボットの橋梁・トピュターに送り解析、ンネル用打音点検(同・レーザースキャナーの3NEC)③ 橋梁点検ロ次元解析などを検証しロボットカメラのモニターた。